

令和 2 年 9 月 定例会 一般質問

通告 7

質問 ウイルス対策時の災害について

答弁 避難誘導・情報伝達の強化に取り組みます

12 番 佐野 弥奈美 議員

【質問：佐野 弥奈美 議員】

12 番、佐野弥奈美です。ウイルス対策時の災害について質問させていただきます。

今流行りのコロナウイルスによる感染者は、幸いなことに中標津でまだ発症者はいませんが、GOTO トラベルなどで道外からの観光客が来られることにより、水際対策はされているにも関わらず、不安な思いをされている方もいらっしゃると思います。



そんなコロナ禍の中、本州では台風や豪雨による大きな災害がありました。被災された方が避難所への避難をされていましたが、コロナの影響で収容人数が大きく減少されていました。3 密を避けるため避難所の収容人数の制限や消毒など、今まで以上に気をつけなければいけないことが多くあることを知らされました。

中標津町でも十分な収容人数と場所が確保されているとは思いますが、中標津町のホームページ上で指定避難所等の確認をすると、令和元年度保存版として一覧が載っていますが、建物が併設されている避難所場は全町で 31 カ所、うち総合福祉センターは介護が必要な方、障害がある方用となっています。町中において 13 カ所のうち 6 カ所は、大雨の場合、浸水や土砂災害の恐れがあるため避難所にはなりません。一時避難所も 26 カ所もありますが、屋外ということもあり、大雨には対応できません。

最近、北海道でも大雨の災害は増えています。そんな中、今回のように感染症対策を行わなければならない状況下で、避難場所での人数制限を行わなければいけないということは、避難箇所を増やさなければいけないのではないのでしょうか。

昨年 6 月の一般質問で、ペットとの避難についても質問させていただきましたが、コロナ禍の自粛の中で、家にいることが多くなったことにより、また、給付金が出たことによりペットを飼う人も多くなっています。

当然、災害時はまず自助だと思っています。自分の命は自分が守ることが第一ですし、これだけ色んな災害が各地で起こっている報道を見れば、必然的に個々に防災対策はされていると思います。私も当然自分の分だけではなくて、犬の分と高齢の親の分の備えとしてはあります。

でも、災害により家が被災した場合、どうしても避難をせざるを得なくなった人たちが最終的に頼るのは公助です。まずは町民の安全です。指定されている避難所に行ってみたら、ウイルスの関係でこれ以上受け入れられませんと言われた時にどこに行けば良いのか。ペットを連れて行って良いのかなど、さらに不安が増します。混乱している中でさらにパニックになることも考えられることから、避難所なども増やさなければならぬと思いますし、見直し等も必要と思われます。

また、臨時的や新たに増やした場合に、どこにあるかわからないと言ったことも起こり得ます。そういった時に、だれが見ても、例えば中標津に最近越してきた方、また旅行で訪れてホテルに滞在していた方などが、そういう人でもわかりやすい防災マップ等を、町内会や各種団体と話し合い作っていただきたいと思います。

現状の防災マップのように、丁寧に細かいものではなくて、子供でも高齢者でも見やすい、よくある観光マップなどのようにイラストなどを利用し、大きな文字で何カ所かの避難所をわかりやすく書いてあれば、慌ただしい中でも、それを渡して移動してもらえることができると思いますし、やわらかいイメージで作っていただければ、少しでも被災した方の心に余裕が出てくるのではないのでしょうか。

人が殺到してバタバタしている状況の中で、だれに聞けば良いのかわからない状況を作らないためにも、災害対応に当たっているだれもがその簡易的なマップを渡し、簡単な説明ができるようになっていれば、被災された人も安心すると思います。

デジタル化が確かに進む中で、自分なりにスマホで調べるのは大変便利かもしれませんが、災害中つながりにくくて、さらにわからないと言った不安もあるかと思います。大げさかもしれませんが、大型災害は今では想定外ではありません。

今言った簡単なマップ、何十年か後にあの時、あんな質問したやつがいて作ったけど結局無駄だったでも良いと思います。備えあれば憂いなしです。町財政の厳しい折、無駄な出費と思われるかもしれませんが、安全で安心のまちづくりのためには必要と考えますが、町長の考えをお聞かせください。

【答弁：町長】

佐野議員御質問のウイルス対策時の災害について答弁申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束もまだ見通せない中、近年頻発化・激甚化する自然災害への対応も、これまでとは違った対応が求められております。

多くの住民が押し寄せる避難所で3密をどのように回避するか、感染防止に係る物資を備蓄するなど、国が示すガイドラインに沿って対策を講じているところではあります。が、実際に災害が発生した際に、避難所の過密状況を的確に把握した上で、速やかに住民へ情報提供し避難誘導することも重要であると考えております。

また、ペットとの避難につきましては、飼い主にとっては家族であり、避難する際も一緒に居たいというお気持ちは十分理解できる場所ではありますが、動物が苦手な方やアレルギーをお持ちの方もいらっしゃる中で、ペットスペースの確保はなかなか課題が大きいというふうに思っておりますので、先進自治体の事例も参考にしながら、避難所を運営していただく町内会など地域の自主防災組織の方々と、研究をさせていただきたいというふうに考えております。

また、御質問にありました、わかりやすい防災マップの作成も含め、避難所をたらい回しにすることのないよう、新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営につきまして、日ごろより、町内会や各種団体と連携を図っておくとともに、災害時の情報伝達の強化についても、改めて取り組んでまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。